



特集
婦人科・腫瘍科 × 放射線診断科

大学病院が提供する婦人科医療

ご挨拶 患者さんの状況に合わせた治療について

いつも多くの患者さんをご紹介いただき誠にありがとうございます。

本稿では「婦人科・腫瘍科」で取り組んでいる**「骨盤臓器脱」の新たな術式**と**「術後ヘルスケア外来」**、**「子宮動脈塞栓術(UAE)」**をご案内させていただきます。

更年期以降の女性にしばしば認められる骨盤臓器脱は高齢化とともに増加傾向にあり、当科でも様々な治療法を患者さんの状況に合わせて選択して対応しています。その中でも、再発率が極めて低く**低侵襲な、腹腔鏡手術での仙骨腔固定術(LSC)**が施設認定され積極的に行っています。

次に、当科で設置している**「術後ヘルスケア外来」**についてですが、外科的閉経(手術によって両側卵巣を摘出)すると心・血管疾患により寿命が短くなると言われています。また、癌サバイバーの方々も抗がん剤等の進歩と共に増えてきましたが、動脈硬化や骨粗鬆症の予防・治療が必要な方が多くおられます。この様に、健康維持や生活の質の向上を目的とした外来です。

最後に、あまり患者さんには知られておらず普及していませんが、子宮筋腫で手術以外の新たな治療選択肢として注目されている**「子宮動脈塞栓術(UAE)」**にも対応しております。放射線診断科の医師との連携が必要となり、当科では「チーム医療」として診断科を跨いだ治療が可能です。

多様化する患者さんの状態やニーズに対応し、これまで以上にご期待に添えられるような医療を提供いたします。



婦人科・腫瘍科
科長
大道 正英

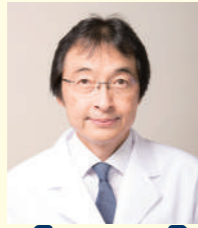
特集

新たな術式、術後のケア、手術しない治療など 患者さんのニーズ、生活に合わせた婦人科医療を展開

おお みち まさ ひで
大道 正英

婦人科・腫瘍科 科長

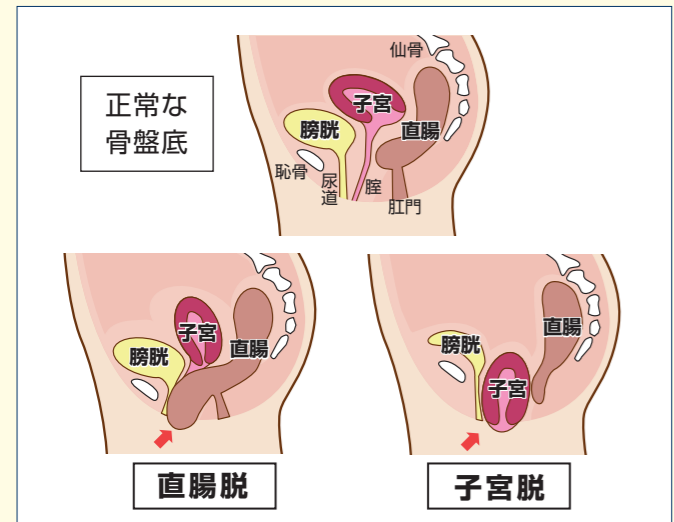
日本産科婦人科学会認定 産婦人科専門医、
日本婦人科腫瘍学会認定 婦人科腫瘍専門医
専門分野：婦人科がんの診断と治療



① 腹腔鏡下仙骨腔固定術(LSC)

良性疾患であってもからだへの負担が小さい低侵襲医療

「骨盤臓器脱」とは、子宮・膀胱・直腸といった骨盤臓器の位置が徐々に下がり、腔から体の外へと出てきてしまうことをいいます。骨盤臓器(子宮・膀胱・直腸)は骨盤底筋と呼ばれる筋肉やその周辺にある靭帯などによって支えられています。しかし、加齢などの理由でその筋肉や靭帯が緩んでしまうと、徐々に臓器の位置が下がり、最終的に腔から体外へと脱出してしまいます。骨盤臓器脱の主な症状は、臓器の下垂症状と排尿・排便症状等があり、QOLを著しく下げます。



2010年までは膣式子宮全摘術が行われていましたが再発率が高く、2011年以降、TVM(Tension-free Vaginal Mesh)は下垂臓器にメッシュを挿入して下垂を防ぐことが世界的に注目されましたが、粘膜に出ているメッシュの糜爛が問題となりました。最近の腹腔鏡下仙骨腔固定術(LSC)は、絶対に緩まない仙骨にメッシュを固定する術式です。再発率は極めて低く、粘膜にもメッシュが出ることは無く、負担の少ない手術としてTVMに取って代わり認められるようになってきました。当科でも順調に症例数が増えております。術後の患者さんの諸症状が著明に改善し満足度の高い手術であると実感しています。こちらは恒遠医師がリーダーとなり対応しております。

当院が5例の施設基準の認定を受けました

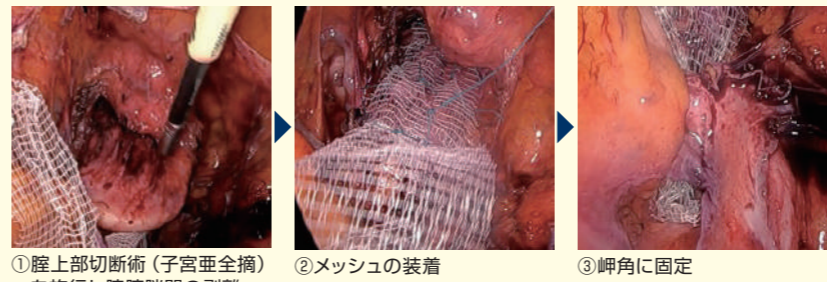
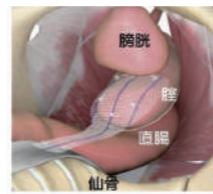
① 患者さんに負担が少なく、再発率の極めて低い腹腔鏡下仙骨腔固定術(LSC)

LSCの好適症

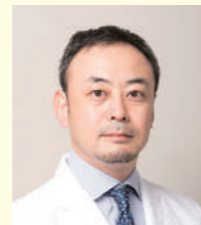
- POP-Q score...Cが+2以上(子宮脱主体)
- 性生活を有する
- TVM後の再発
- 子宮筋腫や卵巣腫瘍の合併

LSCが不適症

- 膀胱腫や直腸腫のみ
- 腹腔鏡手術不適例



①腔上部切断術(子宮垂全摘)を施行し腔膀胱間の剥離 ②メッシュの装着 ③岬角に固定



つね とう さと し
恒遠 啓示

婦人科・腫瘍科 医長

日本産科婦人科学会認定 産婦人科専門医、日本婦人科腫瘍学会認定 婦人科腫瘍専門医
専門分野：婦人科がんの診断と治療、内視鏡治療

② 骨盤臓器脱と直腸脱の合併症を同時解決できる手術

診療科を跨いだチーム医療で合併症にも対応

私たちは現在までに15例のLSCを実施し、患者さんの健康と生活の質を劇的に向上させてまいりました。骨盤臓器脱の患者さんの中には、直腸脱との併存症例も多くあります。実際、15例中3例が骨盤臓器脱と直腸脱の合併症例でした。直腸脱は、肛門から直腸が脱出する状態で、患者さんにとって非常に不快な症状を引き起こします。私たち婦人科・腫瘍科と一般・消化器・小児外科のチームで協力し、両方の問題を同時に解決できる手術を実施しています。手術後の経過は全て順調で、合併症の発生率は非常に低いです。患者さんは手術後に症状の軽減または完全な消失を実感し、日常生活の質が大幅に向上し、満足度も非常に高い治療です。この様に、両科の連携により、骨盤臓器脱と直腸脱の治療において新たな進歩を遂げています。最新の医療技術を駆使し、熟練した専門医が、患者さんに最高の治療結果を提供できるよう尽力しています。骨盤臓器脱と直腸脱に関するお悩みを抱えている患者さんがいらっしゃれば、どうぞお気軽にご相談ください。

③ 術後ヘルスケア外来

術後のリスクを抑えたフォローアップ外来

「術後ヘルスケア外来」は外科的閉経(手術によって両側卵巣を摘出)した方々の健康管理をする外来です。自然閉経の方々の健康管理も行っております。外科的閉経すると心・血管疾患により寿命が短くなると言われています。また、癌サバイバーの方々も抗がん剤等の進歩と共に増えてきましたが、術後の抗がん剤が、動脈硬化で最初にダメージをうける血管内皮傷害の原因となることを明らかにし、定期的に血管内皮機能を測定しております。また、同時に血管の硬さ、腰椎の骨密度も評価しております。右記のイラストの症状がある方や無症状でも閉経された方々は、是非一度ご紹介させていただければ幸いです。

このような症状があればご受診をお勧めします

- 精神神経症状: 不眠、頭重感、不安、記憶力低下、抑うつ、ほてり、めまい
- 自律神経失調症状: 同上

- 心血管系疾患: 心筋梗塞、脳卒中、高血圧症、脂質異常
- 泌尿生殖器萎縮: 萎縮性膀胱炎、性交障害、外陰掻痒感、尿失禁

- 月経異常
- 骨粗鬆症

他院で手術された方も積極的に受入可!



④ 子宮筋腫治療においてUAEは選択肢の一つ

施術方法

実際の症例

Flowchart for Uterine Fibroid Treatment and Case Images. Includes text: 筋腫の縮小と月経・圧迫症状の改善, 血流が途絶えた筋腫は壊死しますが正常筋層の血流は保たれます, 塞栓前, 塞栓後, 3ヶ月後. Legend: MEA: マイクロ波子宮内膜アブレーション, FUS: 集束超音波療法.

おお す が けい こ
大須賀 慶悟

放射線診断科 科長

日本医学放射線学会認定 放射線診断専門医
日本IVR学会認定 IVR専門医
専門分野: 画像診断, IVR(画像下治療)



④ 子宮動脈塞栓術(UAE)

手術以外に新たに注目されている治療法

「子宮筋腫」は30歳以上の女性の20~30%に見られる頻度の高い良性腫瘍です。この子宮筋腫を、お腹を切らずにカテーテルで治療する子宮動脈塞栓術(UAE)についてご紹介します。

UAEの適応

子宮筋腫が多発・増大し、月経過多や月経困難症状、貧血、膀胱圧迫による頻尿など日常生活に支障を来す場合は治療対象になります。従来は、対症療法やホルモン療法で症状を抑えられない場合、子宮全摘術や筋腫核出術など外科手術が中心となり、腹腔鏡・子宮鏡下手術やロボット支援手術など低侵襲な方法が増えていました。一方、手術を希望しない患者さんや手術リスクのある患者さんに代替治療として開発されたのがUAEで、当院では放射線診断科と婦人科・腫瘍科が連携して行っています。但し、UAEは子宮内膜や卵巣機能に影響する可能性があるため、妊娠希望の患者さんには勧められません。

UAEの方法と経過

局所麻酔下にて大腿動脈からカテーテルを左右の子宮動脈に挿入し、塞栓用ビーズを注入して筋腫の血流を遮断します。壊死した筋腫は徐々に縮小しますが、正常筋層の血流は保たれ、約8-9割の方で症状が改善します。但し、副作用として翌日までは強い下腹部痛が生じるため、麻酔科の協力で硬膜外麻酔や麻薬を併用した疼痛管理をしっかり行います。

保険適用され、入院は4-5日間程度で、翌週以降は日常生活や仕事に戻れます。治療後は、壊死した筋腫の脱落、月経不順や症状が再発する可能性もあるため外来でのフォローアップが必要です。

家庭や仕事の両立で忙しい女性にとって、短期間の入院により体への負担が少ない治療で生活の質(QOL)を改善することがUAEのメリットです。両科の担当医とよく相談して、色々な治療法からご自身にあった治療を選ぶことが大切です。UAEの適応の相談だけでも大丈夫ですのでご紹介をお願いします。

UAEの詳細はコチラ→

https://hospital.ompu.ac.jp/departments/diagnostic_radiology/uae-explanation.html



〈予約方法について〉

医療連携室を通して予約をお取りください

- 骨盤臓器脱……婦人科・腫瘍科 初診外来 主に火(月・水・金も可)
- ヘルスケア……婦人科・腫瘍科 ヘルスケア外来(火・金)
- UAE* ……放射線診断科 大須賀医師の初診外来(水)

*婦人科・腫瘍科も受診する場合は調整にお時間がかかる場合があります
2023年11月現在

「糖尿病デー」イベントのご案内

糖尿病は、日常生活に必要な正しい情報を得ることで、適切な血糖コントロールにつなげていくことができます。当院では、医師、看護師、管理栄養士をはじめとした多職種による**糖尿病ケアチーム**を通じて、糖尿病とつきあっていくうえで必要な正しい情報を発信しています。

さて**11月14日は世界糖尿病デー**ということをご存知でしょうか。この日は、糖尿病の予防や治療継続の重要性について世界中で啓発活動が行われます。本院でも、毎年「世界糖尿病デーin大阪医薬大」として、院内イベントを行ってきました。今年は10年目という節目の年であり、これまで行ってきたテーマの中でみなさまにぜひ知ってほしい「**災害**」と「**シックデイ**」について取り上げます。ここ3年間は新型コロナウイルス感染症のため、対面ができずインターネットを通じたイベント開催のみで継続してきましたが、本年は11月14日当日に院内スペースを用い、一部対面でのイベント開催を予定しています。これまでに皆様からいただいた疑問点や心配なことを、少しでも解決いただけるよう、取り組んでいきたいと思っており、ぜひお立ち寄りください。また、期間中は糖尿病のシンボルマークであるブルーサークルにちなんで病院正面玄関をブルーにライトアップする予定です。こちら是非ともご覧くださいませ。

糖尿病ケアチームホームページは下記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご覧ください。 →

https://www.ompu.ac.jp/u-deps/in1/met/wdd_omc/



糖尿病ケアチーム



医療連携室からのお知らせ

「第8回紹介医療機関と大阪医科薬科大学病院との連携強化のつどい」開催報告

2023年9月16日(土) 大阪新阪急ホテルにて、日ごろ本院と連携いただいている病院・クリニックさまを対象に「第8回紹介医療機関と大阪医科薬科大学病院との連携強化のつどい」を開催しました。

新型コロナの影響で4年ぶり、「大阪医科薬科大学病院」に名称変更してからは初めての開催となりました。久々の開催にも関わらず、多くの方々にご参加いただきました。まず、理事長の植木實からご挨拶のあと、消化器内視鏡センター、一般・消化器・小児外科、総合診療科、循環器センターの講演を行いました。

引き続き実施された懇親会も、感染拡大の防止に細心の注意を払いつつ、多くの医療機関の方々とは和やかな場をもつことができました。お忙しい中ご出席いただきました皆様には心よりお礼申し上げます。



医療連携室ご利用のご案内

● 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日/8:30~20:00 土曜日/8:30~12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外のご受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科薬科大学病院 広域医療連携センター 医療連携室
〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

- TEL.072-683-1221 (大代表) 内線2308
- TEL.072-684-6338 (医療連携室直通)

FAX

送信先 FAX 072-684-6339

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。
ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください

編集後記

130年ぶりの記録的に暑かった夏が過ぎ、10月の声を聴くと一気に秋が走ってきました。本院では9月から病院新本館B棟の建築がはじまり、2025年には建ちあがります。「新しくて美しい」だけではない、心の伴った対応が全員でできる病院を目指してまいります。(S.F.)